

5. 家の中でも気をつけて

1 留守番の防犯標語『いいゆだな』

留守番についての子どもへの指導は、次の標語を利用するとよいでしょう。

「いいゆだな」

い「家の鍵を見せない」

カバンやランドセルに鍵を付けていると「留守番をしている子ども」ということが、悪意のある人にわかってしまいます。家の鍵を開ける時まで、鍵はカバンやランドセルの中にしまっておくようにしましょう。

い「家の周りをよく見る」

子どもが鍵を開けていれば、留守番をしていることがわかってしまいます。鍵を開け、家に入ろうとした瞬間に押し入れられるケースもあるので、周りに人がいないか確認してから鍵を開けましょう。

ゆ「ゆうびんポストをチェック」

ポストに郵便物が溜まっていると「留守がちな家＝侵入しやすい家」と思われてしまいます。手紙や新聞を回収すると同時に、不審物がないかも確認しましょう。

だ「だれもいなくても、ただいま」

家に入るとき、大きな声で「ただいま」ということで、家に誰かいると思わせることができます。また、家に侵入者（空き巣など）がいた場合でも自分の存在を知らせることに繋がります。

な「なかにはいつてすぐに戸締り」

家に入ったらすぐにドアの鍵とドアチェーンをかけましょう。家の窓の鍵も確認し、中からの鍵を開けない限り、外から侵入できないようにしましょう。

(参考:「ALSOK 子どもの防犯コラム」

<http://www.alsok-k.co.jp/legacy/column/column01.html>)

2 低学年の子どもへの指導

低学年の子どもに留守番中の電話対応や来客への対応を教え、なぜその必要があるのかを理解させるのは難しいかもしれません。

子どもの成長に合わせて指導やルール作りを行い、小さな子どもにできるだけ一人留守番をさせないように心がけましょう。

3 留守番中電話に出た場合の対応

知らない人からの電話では、

「一人でいることを知らせない」

「自分や友達の情報（電話番号、住所等）は教えない」

留守中に電話に出た場合は、「一人でいることを相手に知らせない」ことが大切です。「おうちの人はいますか？」と聞かれた場合は、「今、お母さんは手がはなせないの、あとでかけ直します。名前と電話番号を教えてください。」など、家に大人がいるように対応するとよいでしょう。

また、学校関係者や景品の当選通知を装って、友達の電話番号などを聞き出そうとする場合があります。そうした電話には「わかりません」、「調べてかけ直します。名前と電話番号を教えてください」など、「自分や他人の情報を教えない」ことが大切です。

5 家の中でも気をつけて

一人留守番の危険性

できれば避けたい子ども一人だけの留守番。しかし、家庭の状況によっては、どうしても子ども一人で留守番ということもあると思います。電話やインターホンを使って家人の不在を確認する犯罪の口口は多くあります。子どもを残して家を出るときは、他人に子どもしかいないことを悟らせてはいけません。

留守番中の対応については、子どもの性格、成長の度合い、住環境などによって、何が最善の方法かが変わってきます。家に入るとき、インターホンが鳴ったとき、電話が鳴ったとき、また、鍵をなくしたらどうするのかなど、実際に起こり得る場面を想定して家庭でよく話し合っ最善策を決めておきます。いざというときに、子どもが行動できるよう指導を行う必要があります。

1

子どもへの指導 (1)

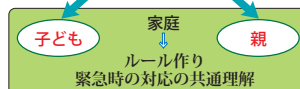
- インターホンが鳴ったとき
- ・ 基本的にはインターホンが鳴っても出ないようにする。誰かが訪ねてきても絶対に鍵を開けないようにする。
- ・ どうしても応対が必要な場合も、モニター付のインターホンやドアスコープを覗いて相手を確認し、すぐにはドアを開けず様子を見て、ドアチェーンをかけて応対する。

2

一人留守番での
子どもの安全

地域・近隣の住民

挨拶・コミュニケーション



家庭と地域で協力し子どもの安全を確保しよう！

こうした言葉を紙に書いて電話機の近くに貼っておくと、子どももとっさに確認ができ、対応がしやすくなるでしょう。

また、こうした防犯上の対応方法とともに、電話対応におけるマナー（受話器は静かに置く、「失礼します」と言ってから切るなど）を教えておきましょう。

（参考：「身近な危険から子どもを守る本」大和書房／著：横矢真理）

4 こんな取り組みもある

文部科学省 放課後子ども教室推進事業

文部科学省は厚生労働省と連携をし、各市町村において、小学校区での、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを進める「放課後子どもプラン」を推進しています。

「放課後子ども教室推進事業」は小学校の余裕教室等を活用して、地域の多様な方々の参画を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施しています。

具体的に何を行うかは各地域で決定をしているため、地域ごとに様々な活動が行われています。事業の主な実施主体は市町村となっており、国は各地域での取り組みに対し補助をしています。

放課後子ども教室推進事業サイト

<http://www.houkago-plan.go.jp/houkago/index.html>

全国の放課後子ども教室

<http://www.houkago-plan.go.jp/houkago/view.html>

規準表 (23a) 家庭で行う防犯対策の方法を理解している。

- ねらい
- ①子どもの留守番の危険性について説明し、注意点を指導できる。
 - ②留守番中の適切な来客対応・電話対応について、注意点を指導できる。
 - ③不審電話などへの対処法を指導できる。
 - ④子どもが家にいる場合、注意点を指導できる。

5

子どもへの指導 (2)

3

●電話が鳴ったとき

- ・家族からの電話は出かける前に電話する時間を決めておいたり、合図（3回鳴らして切るを2回繰り返すなど）を決めておいて、それ以外の電話には出ないようにする。
- ・ナンバーディスプレイがついている電話なら、出てもいい人を前もって決めておき、それ以外の電話には出ないようにする。
- ・留守電にしておいて、家の人に留守電に向かって呼びかけてもらう。声を聞いて家の人なら電話に出る。



保護者への指導

- ①子ども一人で留守番をさせるときは、時々自宅に電話を入れ安全を確認する。
- ②何かあったときに、電話で助けを求められるように、家の人や親戚の家、友達の家、学校、警察、消防署など大事な連絡先の電話番号を子どものすぐわかる場所に書いておく。
- ③家の人が暗くなってからしか帰宅できないときは、室内の明かりをあらかじめつけておくと、不在を気づかれにくくなる。
- ④自宅周辺は整理整頓し、人が隠れられるような死角をつくらないようにする。
- ⑤留守にする場合は、隣近所にひと声かけておくなど、普段から隣近所とのコミュニケーションをよくとり、子どもの安全について協力をお願いしておく。
- ⑥宅配便などは、できるだけ大人がいる時間に配達してもらうよう時間を指定する。

4

ビデオ教材 (ビデオ→ 家の中でも気をつけて)

※ビデオを見て子どもが一人留守番をするときの対応をまとめ、その指導の方法について考えてみましょう。